

中央広域環境施設組合  
新ごみ処理施設整備・運営事業  
落札者決定基準書

令和 4 年 10 月

中央広域環境施設組合

## 目次

第 1 章	総則.....	1
第 2 章	審査方式.....	2
1.	審査の枠組み.....	2
第 3 章	基礎審査の方法.....	4
1.	基礎審査の項目.....	4
2.	基礎審査の流れ.....	4
第 4 章	総合評価の方法.....	5
1.	総合評価の基本方針.....	5
2.	総合評価点の算定.....	5
3.	非価格要素点の算定方法.....	5
4.	価格要素点の算定方法.....	6
5.	総合評価点の得点化方法.....	6

## 第1章 総則

本落札者決定基準書は、中央広域環境施設組合（以下、「本組合」という。）が、新ごみ処理施設整備・運営事業（以下、「本事業」という。）を実施するにあたり、本事業に係る事業者選定委員会（以下、「選定委員会」という。）において、最も優れた応募者を選定するため、入札価格及びその他の条件（性能・機能・技術など）を評価する総合評価一般競争入札を採用する。

本落札者決定基準書は、本組合が本事業を実施する事業者の募集及び選定を行うにあたり、入札に参加しようとする者（応募者）を対象に配布する入札説明書と一体のものである。

落札決定基準は、事業者の選定にあたり応募者のうち最も優れた提案を行った者を客観的に評価及び選定するための方法や評価項目を示し、応募者が行う提案について具体的な指針を与えるものである。

## 第2章 審査方式

### 1. 審査の枠組み

落札者決定のための審査は、第 1 段階の「資格審査」と第 2 段階の「提案審査」で構成される。

第 1 段階の資格審査では、応募者の参加資格要件を確認し、参加資格要件を満たす者のみが第 2 段階の提案審査を受けることができる。第 2 段階の提案審査では、「基礎審査」、「非価格要素審査」及び「価格審査」で構成され、事業提案内容を評価し、落札者を決定する。

入札公告後から落札者決定に至るまでの流れを次に示す。

#### 1) 資格審査

応募者が提出した入札参加資格申請書類を基に入札説明書（実施方針）の「参加資格要件」に示した事項を満たしていることを確認する。なお、入札参加資格申請書類受付期限までに入札参加資格申請書類を提出しない者及び参加資格要件を満たさないと認められた者は、入札に参加することができない。

資格審査結果は、全応募者に対して通知する。

#### 2) 提案審査

##### (1) 基礎審査

本組合は、入札書類に記載された内容が、本落札者選定基準書に示す基礎審査の項目を全て満たしているか確認する。

当該要件を全て満たしていることを確認した応募者のみ、第 2 段階の提案審査の「非価格要素審査」及び「価格審査」の審査対象となる。基礎審査の項目を 1 項目でも満たしていないことが確認された場合は、当該応募者を失格とする。

##### (2) 非価格要素審査

応募者から提出された非価格要素審査に関する事業提案書に記載された内容に対して、本落札者選定基準書に示す非価格要素点の算定方法に則り評価し、得点化する。得点化にあたっては、選定委員会による審査を実施する。

##### (3) 価格審査

応募者から提出された価格審査に関する入札書に記載された内容に対して、予定価格の範囲内であること及び事業計画書と入札書が整合していることを確認した上で、本落札者選定基準書に示す価格要素点の算定方法に則り評価し、得点化する。

入札価格が予定価格を上回った場合または事業計画書と入札書が整合していない場合は、当該応募者を失格とする。

#### (4) 総合評価

非価格要素審査の得点と価格要素審査の得点を加えて総合評価点を算出し、落札者を選定する。

#### 3) 落札者の決定

最も高い総合評価点を得た応募者を落札候補者として選定する。なお、総合評価点の最も高い応募者が2者以上の場合、入札価格が低い応募者を落札候補者とし、入札価格が同額な場合は、当該応募者のくじ引きにより落札候補者を選定する。

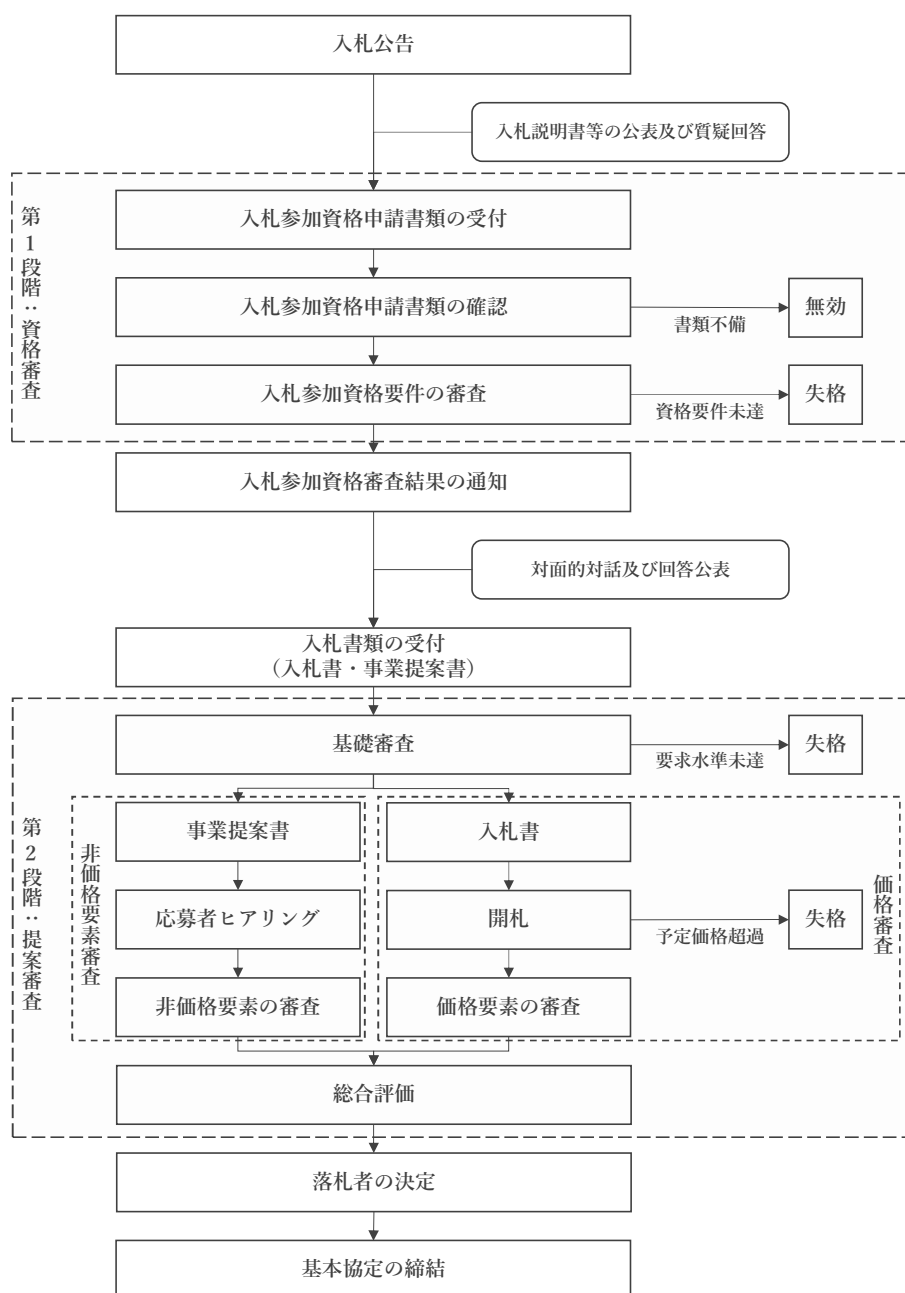


図 1 落札者の決定手順

### 第3章 基礎審査の方法

#### 1. 基礎審査の項目

応募者が提出した事業提案書に記載された内容が、次の基礎審査の項目を満たしているか確認する。

##### 1) 提出書類の審査

- (1) 必要な提出書類が全て揃っているか。
- (2) 提出書類間での整合性が図られ、提案事項間の齟齬や矛盾などがないか。

##### 2) 事業提案書と要求水準書の適合性

- (1) 本組合の要求水準事項（要求水準書の内容）を満たした技術提案がされているか。
- (2) 事業計画書内の金額が整合しているか。

#### 2. 基礎審査の流れ

応募者が提出した事業提案書について、全ての基礎審査の項目の内容を満たしているか確認し、全て満たす場合は、当該応募者の事業提案書を合格と判定し、「非価格要素審査」及び「価格要素審査」の審査対象とする。

基礎審査の項目の内容を 1 項目でも満たしていないことが確認された場合は、当該応募者を失格とする。

## 第4章 総合評価の方法

### 1. 総合評価の基本方針

応募者が提出した入札書類の審査方法が「総合評価」となるため、得点化基準については、本組合が本事業に期待する事項の重要性などを勘案して設定している。

なお、本組合は、本事業に対して民間事業者のノウハウ（技術的能力・経営能力など）を活用することで公共サービスの水準向上とともに、財政負担の削減を図ることを期待している。

### 2. 総合評価点の算定

選定委員会で審査・決定した事業提案書の「非価格要素点」と応募者の入札価格による「価格要素点」から「総合評価点」を算出する。

なお、非価格要素点は 60 点満点、価格要素点は 40 点満点とし、合計 100 点満点とする。

$\text{総合評価点 (100 点)} = \text{非価格要素点 (60 点)} + \text{価格要素点 (40 点)}$
---

### 3. 非価格要素点の算定方法

#### 1) 審査項目と配点

非価格要素の審査項目は、新ごみ処理施設整備基本方針に従い、事業期間にわたり施設を「環境に優しい施設」、「経済性に優れた施設」、「循環型社会の形成・推進に寄与する施設」、「安全・安心な施設」とするための施設整備及び運営を行う上での必要性和重要性を勘案して設定する。

審査項目別の配点は、本組合が本事業に対して応募者に期待する度合いを基に設定した。したがって、審査項目は、本組合が本事業を実施する事業者に期待する事項であり、配点はその重みを示すものである。

#### 2) 審査基準及び得点化方法

- (1) 提案を求める審査項目は、表 1 に示す 5 段階評価による得点化方法により得点を付与する。
- (2) 各審査項目の得点は、各選定委員の項目ごとの得点を平均化（小数第三位を四捨五入）する。
- (3) (2) の結果を基に各応募者の各審査項目の得点の合計を算定する。

表 1 審査基準及び得点化方法

評価	審査基準	得点化方法
A	特に優れている	配点×1.00
B	A と C の間	配点×0.75
C	優れている	配点×0.50
D	C と E の間	配点×0.25
E	標準	配点×0.00

#### 4. 価格要素点の算定方法

##### 1) 開札及び入札価格の確認

応募者が提出した入札書の入札価格が予定価格を上回っていないことを確認し、予定価格範囲内の提案については、入札価格の得点化を行い、予定価格を上回る場合は、当該応募者を失格とする。

##### 2) 入札価格の得点化方法

価格要素点は、建設業務費（建設業務）及び運營業務委託費（運營業務）を得点化し、それぞれの入札価格を表 2 に示す算定方式により得点化し、合計したものとする。なお、それぞれの配点は次に示すとおりとし、得点は小数第三位を四捨五入する。

$\text{価格要素点 (40 点)} = \text{建設業務費 (20 点)} + \text{運營業務委託費 (20 点)}$
---

表 2 価格要素点の算定式

$\text{入札価格の得点} = (\text{最低入札価格} / \text{入札価格}) \times \text{満点の点数}$
--

#### 5. 総合評価点の得点化方法

総合評価点の得点は、次のとおりとする。

$\text{当該応募者の総合評価点} = \text{非価格要素点} + \text{価格要素点}$
---



表 3 非価格要素の項目及び配点

審査項目		評価内容	配点
1 事業全般			
1)	実施方針	【取組姿勢・コンセプトを評価】 ■ 本事業に対する取り組みの考え方及びコンセプトなどは優れた提案か。	3
2)	実施体制	【実施体制を評価】 ■ 施設の安定稼働に配慮した各々の役割分担が明確か。 ■ 人員配置及び教育計画は実効性と妥当性のある提案か。 ■ 処理対象廃棄物の安定処理について継続的かつ実効性のあるバックアップ体制の提案か。	3
3)	事業リスク	【リスク管理を評価】 ■ リスクが顕在化した時の影響の極小化を図るためのリスク管理方針及び管理体制の構築が適切か。 ■ 本事業に対するセルフモニタリング体制及び方法に合理性及び妥当性が期待できる提案か。 ■ 事業期間中に事業の継続性の担保について実効性と妥当性のある提案か。	5
4)	工期遵守のための対策及び 工程管理計画	【設計及び建設工程管理を評価】 ■ 工事工程表（設計及び建設）とその管理方法は適切か。 ■ 工期遵守のための工夫（働き方改革への対策を含む）は適切か。 ■ 経験的に推測される工事遅延の要因とその対策を踏まえた提案か。	5
5)	地元発注への配慮	【地域貢献を評価】 ■ 設計及び建設と運営の各段階（地元で産出・生産または製造等の資材など（地元で産出・生産または製造がない場合は、地元業者が販売する資材など）の調達を含む）における地元企業の活用方針（発注分野・発注予定額など）は優れた提案か。	4
2 環境に優しい施設			
1)	公害防止基準	【公害防止に対する対策を評価】 ■ 公害防止基準値を満足するための工夫と万が一、公害防止基準値を超過した時の対策・対応案は適切か。 ■ 騒音・振動・悪臭について、プラント設備の稼働による周辺環境への影響を極力防止するための方策として実効性と妥当性のある提案か。	4
2)	景観への配慮	【施設のデザイン・景観への配慮事項を評価】 ■ 施設のデザインが周辺環境に配慮した意匠計画になった提案か。	2
3 経済性に優れた施設			
1)	施設の有効利用	【施設の有効利用を評価】 ■ 20 年以上使用する施設を前提とした具体的かつ実効性の期待できる維持管理計画か。 ■ 固形燃料の製造について、より付加価値の高い固形燃料を製造する工夫がされているか。	5

審査項目		評価内容	配点
4 循環型社会の形成・推進に寄与する施設			
1)	地球温暖化防止対策	<b>【地球温暖化防止に対する対策を評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 太陽光発電設備など、自然エネルギーを利用する計画か。</li> <li>■ 導入設備は、省エネ設備などのエネルギー使用量を低減することを目的とした計画か。</li> </ul>	4
2)	環境学習及び見学者対応	<b>【展示機能及び環境学習機能を評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 子ども、高齢者、障害者など、見学者の年齢や立場などを配慮した提案か。</li> <li>■ ごみ処理及び環境問題を主体的に学び・理解するためのプログラムや見学ルートは計画性と具体性のある提案か。</li> </ul>	3
3)	住民に開かれた管理運営	<b>【情報発信方法を評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 施設の稼働状況などに関する情報を分かりやすく発信するための方法について具体的な提案か。</li> </ul>	2
5 安全・安心な施設			
1)	安定稼働	<b>【施設の安定稼働能力を評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ごみ処理に対する高い技術を有し、設備構成やバックアップの考え方が信頼性の高いものか。</li> <li>■ 季節変動、ごみ量・ごみ質の変動に対して柔軟に対応できる設備機器で余裕を持った安全性の高いシステムか。</li> <li>■ 施設の運営に支障のでないよう、設備機器の維持管理性が優れたシステムか。</li> <li>■ 本施設と同種または類似の建設工事・運営等の実績を有するか。</li> </ul>	5
2)	基本性能の維持とメンテナンス	<b>【施設の基本性能を評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ごみ処理施設の基本性能を維持するため、点検・検査・補修及び更新などの各対応が計画性の高いものか。</li> <li>■ 運転及び維持管理を行う上で必要となる各種計画書やマニュアルなどが整備され、実効性の高い計画か。</li> </ul>	4
3)	事故防止対策等	<b>【事故防止対策を評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 運営時のトラブルを未然に防止するための対策（ハード面及びソフト面）が具体的かつ実効性のある提案か。</li> </ul>	3
4)	災害時及び緊急時の安全確保	<b>【災害時の対応を評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 災害時及び緊急時の利用者及び作業員等の安全確保及び事業継続について優れた提案か。</li> <li>■ 発災時にごみ処理を継続するための具体的な手順、連絡体制及びバックアップを含む運転体制及び運転方法等は、実効性と妥当性のある提案か。</li> <li>■ 発災時からの早急復旧案は実効性の高い提案か。</li> </ul>	5
5)	全体配置動線計画	<b>【施設の動線計画を評価】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新ごみ処理施設のプラットホームでの受入、待車、貯留、移送作業等がスムーズに行える計画か。</li> <li>■ 見学者の動線に配慮し、運転及び維持管理と区分された動線計画か。</li> <li>■ 施設全体の諸室や設備機器等の配置は安全に運転及び維持管理ができ、効率性の高い配置かつ動線計画か。</li> </ul>	3
			60